

### 第1回 (2016/4/11)

テキスト：デイヴィット・ハーヴェイ、本橋哲也訳『ネオリベラリズムとは何か』青土社、2007年。

### 第2回 (2016/05/30)

テキスト：ジョセフ・ヒース、アンドルー・ポター、栗原百代訳『反逆の神話：カウンターカルチャーは いかにして消費文化になったか』NTT 出版、2014年。

### 第3回 (2016/06/20)

テキスト：網野善彦、宮田登、上野千鶴子『日本王権論』春秋社、1988年。

### 第4回 (2016/6/27)

テキスト：スーザン・バック＝モース、堀江則雄訳『夢の世界とカタストロフィ 東西における大衆ユートピアの消滅』岩波書店、2008年。

### 第5回 (2016/8/10)

テキスト：ポール・リクール、久米博訳『記憶・歴史・忘却』新曜社、上 2004年、下 2005年。

### 第6回 (2016/09/20)

テキスト：ジョン・アーリ、吉原直樹ほか訳『モビリティーズ 移動の社会学』作品社、2015年。

### 第7回 (2016/11/25)

テキスト：ニコラス・ローズ、堀内進之介、神代健彦訳『魂を統治する私的な自己の形成』以文社、2016年。

### 第8回 (2017/01/24)

テキスト：伊藤守『情動の権力 メディアと共振する身体』せりか書房、2013年。

### 第9回 (2017/02/21)

テキスト：① 「特集 トランプ以後の世界」『現代思想』2017年1月号  
② 「特集 アメリカ文化を読む」『ユリイカ』2017年1月号

### 第10回 (2017/3/15)

テキスト：加藤彰彦ほか編『家族研究の最前線① 家と共同性』日本経済評論社、2016年。

### 第11回 (2017/04/27)

テキスト：① ゲオルグ・ジンメル「廃墟」『ジンメル・エッセイ集』川村二郎訳、平凡社、1999年。  
② クリストファー・ウッドワード「だれがデイジー・ミラーを殺したのか」『廃墟論』森夏樹訳、青土社、2016年。

### 第12回 (2017/10/06)

テキスト：アントニオ・ネグリ、マイケル・ハート、幾島幸子訳『マルチチュード 〈帝国〉時代の戦争と民主主義』日本放送出版協会、2005年。

### 第13回 (2017/11/28)

テキスト：コーエン・ロウ、伊藤豊雄、松永安光訳『マネエリスムと近代建築』彰国社、1981年。

### 第14回 (2017/12/22)

テキスト：西兼志『〈顔〉のメディア論 メディアの相貌』法政大学出版局、2016年。

### 第15回 (2018/02/07)

テキスト：① 花部英雄「童話、昔話、民話の研究の足跡」  
② 重信幸彦『「話」という言語実践へのまなざし』『こえのことばの現在——口承文芸の歩みと展望』口承文芸学会編、2017年。

### 第16回 (2018/04/27)

テキスト：① 品川哲彦『倫理学の話』ナカニシヤ出版、2015年。  
② 福田恆存「一匹と九十九匹と」『思索』1947年。

### 第17回 (2018/07/09)

テキスト：ジョルジョ・アガンベン、高桑和巳訳『ホモ・サケル 主権権力と剥き出しの生』以文社、2003年。

### 第18回 (2018/10/05)

テキスト：M・ブランショ、栗津則雄・出口裕弘訳『文学空間』現代思潮社、1962年。

### 第19回 (2018/11/29)

テキスト：ホミ・K・バーバ、本橋哲也ほか訳「他者の問題——ステレオタイプ・差別・植民地主義言説」『文化の場所——ポストコロニアリズムの位相』、法政大学出版局、2012年。

### 第20回 (2018/11/29)

テキスト：リンダ・ハッチオン、片渕悦久ほか訳『アダプテーションの理論』晃洋書房、2012年。

### 第21回 (2019/2/1)

テキスト：レオ・ベルサーニ、酒井隆史訳「直腸は墓場か？」『批評空間』第2期8号、1996年

### 第22回 (2019/5/23)

テキスト：チャンドラ・セカール・スリーパダ&スティーヴン・スティッチ、薄井尚樹訳「規範の心理学のためのひとつの枠組み」『社会と倫理』30号、2015年

### 第23回 (2019/7/4)

テキスト：國分功一郎『中動態の世界 意志と責任の考古学』医学書院、2017年

### 第24回 (2019/7/24)

テキスト：松永伸司『ビデオゲームの美学』慶應義塾大学出版会、2018年

## 第 25 回 (2019/11/1)

テキスト：フレドリック・ジェイムソン、大橋洋一ほか訳『政治的無意識』平凡社、2010 年